

平成29年度 事業計画

1. 学術振興事業 3, 250, 000円

先端的科学技術に関わる大学等研究機関及び研究者への支援並びに研究を社会還元へとつなぐための研究セミナー等の開催を通して学術の振興を図る。

- ①研究費援助は、若手教員(平成29年4月1日現在40歳以下)を対象に引き続き行う。
【100万円:4~6件程度、15~25万円/件】
- ②大学院前期博士課程学生の国内学会発表への出張費援助は、支援の上限額を3万円/件として、引き続き行う。
【75万円:3万円/件】
- ③図書費援助は、慶應義塾大学理工学部メディアセンターに対し、引き続き行う。【年額20万円】
- ④研究会合費援助は、理工学部の教員並びに大学院生が主催する研究会合に対し、引き続き行う。【年額10万円】
- ⑤「現代科学・技術の最前線セミナー」については先端的研究の諸分野に関わる研究者等を講師に迎え、例年通り1~2回程度の開催(主催/共催)を予定する。【年額20万円】
- ⑥慶應義塾大学理工学部創立75年記念事業支援(3年間)の3年目として、「革新的教育研究活動支援資金援助—卓越した教育研究プロジェクト援助—」に対する支援を行う。【100万円/年】

2. 国際交流事業 900, 000円

日本の科学技術の発展と国際交流の促進を図るための研究者への支援並びに海外からの研究者招聘等の支援を通して先端的科学技術に関する国際交流を図る。

国外学会における研究成果発表のための学会出張費援助は、対象者を教員・大学院生として、引き続き行う。
また、国際交流推進援助として、海外研究者の来日も含め、国際的な移動に対して支援を行う。申請状況を鑑み、昨年と同額を計上する。

3. 育英奨学事業 5, 440, 000円

科学技術系大学・大学院の学生に対する奨学・育英を図るための学費等の助成並びに成績優秀な学生の褒賞等により先端的科学技術に関わる人材の育成を図る。

- ①研究意欲旺盛で優れた研究業績を挙げると認められる後期博士課程の人物優秀な学生を育英するための助成を引き続き行う。【年額210万円:70万円/名×3名】
- ②理工学系の大学院前期・後期博士課程の学生に対する奨学を目的する給費奨学金の給付を引き続き行う。
【年額324万円:36万円/名×9名】
- ③例年通り、慶應義塾大学理工学部卒業生(平成30年3月卒)の成績優秀者7名に対して「慶応工学会賞」を授与し、表彰する。【年額35万円:5万円/名×7名】

4. 研究推進事業 220, 000, 000円

産官学連携による委託研究・共同研究の斡旋と紹介、受託研究の受入れ、使用研究者指定の研究資金の援助寄付の受入れ、並びに研究成果の実用化・事業化による社会還元を支援することにより先端的科学技術の研究活動の推進・発展を図る。

例年通り、委託研究事業として、企業・公共団体等からの委託研究・共同研究等を受託する。今年度は昨年度までの大口共同研究が終了したため、目標額を従来の規模に縮小し、その達成を図る。使用研究者を指定した研究資金の援助寄付の受け入れは、年度ごとの増減の幅が大きいこと、見積ることが困難である。

5. 学術普及事業 1, 600, 000円

科学技術に関わる講習会等の開催及び開催業務の支援を通して、その普及並びに研究成果の社会還元に参加することを図る。

経済性工学セミナーは、財団創立後まもなく開始し、半世紀にわたって継続して開催されており、その運営に関わる事務を引き続き受託する。また、当セミナーは、新しい研究成果やその時々々の経営ニーズを内容におきこみながら、その充実が図られており、科学技術の普及並びに社会への還元に参加するものである。